

8-3		主題	デイサービスにおけるターミナルケアとそこでの看護師の役割を考える	
ターミナルケア		副題	デイサービス利用者を終末期まで受け入れる事が出来た一事例	
施設内看護師の役割				
研究期間	9ヶ月	事業所	社会福祉法人 小茂根の郷 こもね在宅サービスセンター	
発表者：清水 のり子（しみず のりこ）			アドバイザー：岩下 清子（いわしたきよこ）	
共同研究者：田辺 由佳（たなべゆか）名木田 砂知（なぎたさち）萩原 圭子（はぎわらけいこ）				
電話	03-3959-7495	メール	day@komonenosato.com	
FAX	03-3959-7438	URL	http://komonenosato.com/	

今回発表の事業所やサービスの紹介	当施設は、平成9年板橋区に開設。予防・一般型と認知症対応型（3単位）があるデイサービスです。「安心して参加できる」「楽しみを持ち、生活の目標を持って生き生きと暮らせる」「介護者の介護負担を軽減し生活意欲が持てる」という方針を掲げ、医療度の高い方やターミナル期にある方であっても受け入れ、最期まで住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう支援することを目指しています。
------------------	--

《研究前の状況と課題》	《研究の目標と期待する成果》
<p>終末期を在宅で過ごしたいと考える方やその家族が、デイサービスを利用したいとの思いが高まっている。</p> <p>しかしながら受け入れにあたり、ケアワーカーの終末期ケアに対する理解が充分ではない事や、看護師のアセスメント能力や疾病の理解、観察力の不足、看護師と相談員やケアワーカーなど他職種間との連携が、充分でない事により、終末期利用者を受け入れるにあたり職員の不安があった。</p> <p>また、かかりつけ医との病状の共有や指示受けが、タイムリーに行えていない状況があった。</p> <p>上記の理由により、受け入れ体制が不十分なことが事業所としての課題であった。</p>	<p>＜研究の目標＞</p> <p>デイサービス利用者を終末期まで受け入れ止める事が出来た一事例を振り返ることで、デイサービスにおける看護師の役割を考え、終末期利用者を受け入れるための、残された課題を明確にし、今後の体制整備につなげる。</p> <p>＜期待する成果＞</p> <p>終末期利用者を、受け入れるための体制が整い、利用者や家族の思いを十分に考慮した援助がきること、利用者は安全、安心してデイサービスに通所出来き、より良い最期の時を迎えられる。</p>

《具体的な取り組みの内容》

0氏は平成17年から当デイサービスの利用を開始。パーキンソン病の診断はあったが、病状は安定しADLは自立していた。当研究は病状が悪化してから亡くなるまでの、デイサービスの受け入れに、不安があった9カ月間を報告する。

平成22年4月より、急激に体重低下し、転倒が増え、動ける時間が短くなる。それによりセルフケア能力の低下が生じる。5月頃より、血圧の急激な変動が生じ、全身の筋緊張や眼球が上転し一過性の意識消失が出現した。病院に救急搬送することもあった。0氏は定期的に通院が出来ない状況にあり、医師や家族、かかわる職員に正確な病状の共通認識が持てない状況にあった。看護師は、医師には文書連絡や受診同行により、積極的に病状報告を行った。

血圧の変動が大きく入浴困難であったが、医師に入浴基準値を確認したため、清潔保持ができた。また体調不良時受診の判断に迷った際は、電話で相談させてもらう事と、急変時の診察を要請し承諾が得られたため、安心して通所して頂ける環境が整えられた。服薬が出来ない状況だったが、服薬管理表を作成し、家族に記入してもらう事で確実な内服投与が出来、それにより症状の緩和ができた。また日々の経過記録を充実させ、職員間で状態の共有や援助内容の統一を図る事で、体調が良い時は短時間でも好きな活動に参加して頂く事ができた。12月センター利用時、状態悪化し自宅に送る。同日家族に見守られ永眠される。

《取り組みの結果と評価》

当デイサービスの通所が大好きと言っていた0氏が、亡くなる日まで通所出来た事は、0氏の思いを支援出来たと考えられる。0氏と家族からは感謝の言葉があった。医師との積極的な関わりを持つ事で、0氏の受け入れ継続が可能となった。他職種からの細かい状態変化の報告があった事と、ケース記録を充実させた事で、情報共有ができ連携が図れた。そのため、良い援助提供が出来たと考えられる。看護師としては、受け入れに際し不安や緊張はあったが、一歩踏み出しなんとかやり遂げる事により、デイサービスにおける看護師の役割が明確になり、自信が持てた。また、他職種との信頼関係の構築、チーム力の向上につながった。受け入れは最期まで出来たが、もっと早くに最期を予測し環境を整えられる事が出来たなら、本人や家族が残された時間をもっと充実できたのではないかと考える。

《まとめ》

当法人は、法人全体として終末期ケアに積極的である。デイサービスでも終末期の利用者の受け皿が増えれば、本人やその家族にとってサービスの選択肢が広がるだろう。しかし現状は多くの課題に直面している。看護師としては、疾病の理解や観察、アセスメント能力を高める。今後起こりうる症状を他職種に伝えていく。また医師とは顔が見える関係性を築いていきたい。なお、最期を予測した受け入れ体制を整えるには、他職種、他部署との協力体制の強化が必須。

《提案と発信》

ターミナル期にある方や医療度の高い方が、住み慣れた地域、住まいで安心して生活できるようデイサービスでの受け入れを行なっていきましょう。デイサービスの看護師は大変ですがやりがいがあります。一緒に働きましょう。提案としてデイサービスに「ターミナル加算」や「看護師配置加算」があり、緊急時にかかりつけ医がデイサービスへ往診ができると、ターミナル受け入れのより良い体制が作れると考える。

【メモ欄】